

かみのやま

2026

9

交流の旅は、これからもつづく。

～友好都市・ドナウエッシンゲン市から学生訪問団が来市～



★ Topics

- p2-3 【特集】 学生訪問団が会い、学んだ 茂吉を迎える旅
- p4-8 まちの出来事を紹介！「PICK UP！かみのやま」
- p16 市営バス 北部循環線の運行を開始します
- p28 かみのやまのピース #40 田島大輔さん



上山市ホームページ
視覚障がい者などへの
支援アプリ「ナビレンス」
からも読み取れます。



～interview～

茂吉がつないだ未来

学生訪問団は太鼓の演奏や花笠音頭などの日本文化を体験したほか、斎藤茂吉記念館や上山城、榎下宿などを訪れ、上山の歴史について学習。さらに、保育園や学校を訪問し、園児や小学生、高校生と交流を深めました。斎藤茂吉がきっかけで生まれた交流で、どのような経験をえたのでしょうか。



異文化に触れた貴重な体験

サラ・ドゥ・シュルモンさん (17歳)

ホストファミリーや上山の人々に歓迎されて、素晴らしい時間を過ごすことができたことに感謝しています。上山はお城や榎下宿など歴史的な建物が多く、文化を大切にしている印象を受けました。

一番うれしかったことは、家族の一員のように日常生活を送らせてもらい、上山の文化や食、自然を体験できたことです。上山の自然は私のふるさとの景色とも似ていて、斎藤茂吉さんもこの景色を眺めていたかと思うと、感慨深いですね。

時を越え、流れは続く

茂吉が歩んだ時代から、およそ100年。今、その絆を受け継ぐ若者たちが互いのまちを訪れ、斎藤茂吉を知り、文化を学び、人と出会い、新たな交流を育んでいます。

次の夏は、上山の学生団がドナウエッシンゲン市へ。かつて茂吉が歩いた地を次の世代が訪ねます。

1人の旅から生まれた絆は、川の流れるように、絶えず次の世代へと続いていくでしょう。



現代まで結ぶ“絆”に感謝

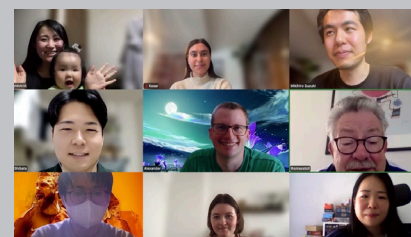
ラウラ・シュレーダーさん (17歳)

斎藤茂吉さんによって上山市とドナウエッシンゲン市の交流が始まったことに最も驚きました。記念館を訪れ、100年以上前に斎藤茂吉さんが歩んだ偉大な旅が、現代の私たちのような若い世代にも影響を与えていることがロマンチックで、魅力的ですね。私たちは当時の斎藤茂吉さんと逆のルートを辿りましたが、互いに行き来することが過去と現在を結ぶ特別な絆のように感じます。この絆が長く続くことを願っています。

pick up /

多様に広がる、交流の輪

両市の交流は、時代とともに新しい形で続いています。交流をさらに広げ、それぞれの文化を身近なものにするため、今年3月、有志によるオンライン定例会(代表・鈴木幹太さん/本市出身)が立ち上がりました。ZOOMで3か月に1回、両市出身、または両市に関心のある幅広い世代がさまざまなテーマで交流しています。代表の鈴木さんは「気軽に交流できるリアルタイムの交流を実現したかった。翻訳字幕を活用しているので、興味のある人は参加してほしいです」と話します。



▶次回は9月26日(土)
午後6時～7時予定。
申込は二次元コードから。



ドイツ・ドナウエッシンゲン市から来ました！

【特集】学生訪問団が会い、学んだ

茂吉を辿る旅

◇訪問団のみなさん(写真左から)
ララ・ベンツェルさん/ジェイソン・クレマンさん/サラ・ドゥ・シュルモンさん/フロリアン・フォルマーさん/フェムケ・チュアシュマンさん/ラウラ・シュレーダーさん/フィニア・ブランクさん/アイダン・ユセイノフさん/ナタリア・ランゲさん/マリナ・クリスティッチさん

6月、うれしいニュースが上山に飛び込んできました。2028年放映予定、本市ゆかりの歌人である斎藤茂吉と妻・輝子をモデルにしたドラマの制作が決定し、改めて斎藤茂吉の名が全国に知れ渡りました。

盛り上がりを見せる中、7月31日～8月11日には、友好都市盟約を結ぶドイツ・ドナウエッシンゲン市から16～18歳の学生9人と引率者1人のあわせて10人の学生訪問団が来市。市民と交流したり、上山の文化・歴史に触れたりしました。特に、斎藤茂吉記念館では熱心に話を聴く姿が見られました。これを機に、学生訪問団と一緒に斎藤茂吉の歴史を振り返ってみましょう！



～茂吉を知る～

斎藤茂吉ってどんな人？

歌人

全17冊の歌集を刊行(生涯の作歌数は約1万8千首に及ぶ)。ふるさとの自然や家族、自分の喜びや悲しみを短歌に表した。

医師

日本と欧州で精神医学を学び、医師として治療にあたり、院長として病院経営に尽力。医学者としての生活を、短歌の題材にしたこともある。



斎藤茂吉(欧州留学時)
画像提供：斎藤茂吉記念館

pick up /

一冊の紀行が、100年後の交流につながる

1924年、斎藤茂吉は欧州に留学した際、人生で1度だけドナウエッシンゲン市を訪れ、その体験を紀行「ドナウ源流行」に綴り発表しました。この縁がきっかけで、約70年後の1995年、友好都市盟約が結ばれ、それから30年以上の交流が続いています。斎藤茂吉は、ドナウ川とふるさとの母なる川・最上川を重ねあわせたのかもしれません。

茂吉の年表

- 1882年
山形県南村山郡金瓶村(現：上山市金瓶)に守谷家の三男として生まれる。
- 1896年
東京で医院を開業していた同郷出身の斎藤紀一のもとに身を寄せる。(14歳)
- 1902年
第一高等学校第三部入学(20歳)
- 1906年
根岸短歌会に入会し本格的に短歌を始める。(24歳)
- 1910年
東京帝国大学医科大学(現在の東京大学医学部)卒業(28歳)
- 1913年
第一歌集「赤光」を出版(31歳)
- 1914年
紀一の次女・輝子と結婚(32歳)
- 1921年
欧州へ留学(39歳)
- 1951年
文化勲章を受ける(69歳)
- 1952年
「斎藤茂吉全集」全56刊出版(70歳)
- 1953年
死去(70歳9か月)